

やまびこ

BULLETIN OF YAMAGATA UNIVERSITY LIBRARY

No.56 2006.3

[蔵王のお釜(火口湖)]

もくじ

山形大学図書館に期待すること 附属図書館事務部長 友光 健二	1
「鈴木文庫」の寄贈	2
ひろば(図書館からのお知らせ)	6
本学教員著作寄贈図書	7
附属図書館運営委員会審議事項	7
中央図書館前期ガイダンス案内	8

山形大学図書館に期待すること

附属図書館事務部長 友光 健二

1月から清水部長の後任として山形大学図書館に赴任しました。図書館のこれからについては「山形大学附属図書館の今後の在り方について」(図書館HPの左欄の「図書館について」をクリック→「議事録・報告書」をクリック→そのページの「・発表論文等」のところに掲載してあります)という分かりやすい資料ができていますので、詳しくはそれにゆづって、他の観点から山形大学図書館に期待することについて書いてみたいと思います。

まず、当たり前のことですが図書館はサービス業であるということです。ということは、図書館の利用者の役に立たなければ、満足を与えられなければ存在する意味がないということです。図書館の利用者と言っても、教員、職員、大学院生、学部学生、学外者など沢山おり、図書館のサービスも、全学的に学術資料を収集し、利用しやすいように整理することから、中央図書館などの建物の中で学生が資料を調べたり、学習しやすい環境を提供することまで、多岐にわたります。全学的な学術資料の収集については、出来るだけ良い条件で安く、しかも確実に入手することが図書館の仕事になりますが、本学

で導入しているデータベースや電子ジャーナルについては、国立大学図書館全体でコンソーシアムを結成して、出版者と交渉し、一般向けよりはかなり安く良い条件で契約していますので、全国的なレベルでのサービスを提供できていると思います。一方、図書館の建物内でのサービスとなると(話を中央図書館に限りますが)、全国レベルでのサービスが出来ているとは残念ながら言えません。入館者数が少ない、貸出冊数が少ない、職員に対して厳しい意見が寄せられるといったソフト面で不十分な点や、トイレ・閲覧用机が古くて、使いづらい、冷暖房が十分に効かないなどのハード面での不十分な点もあります。ハード面の改善は、予算の手当が伴わないとなかなか難しいのですが、ソフト面の改善は職員の努力、工夫である程度行えるのではないのでしょうか。少なくとも、社会一般でのサービスのレベル、具体的にはコンビニでのサービスを見習ってそのレベルまでには高めるべきだと思います。お客さんを待たせない、迷っている人にはこちらから声をかける、そこにいけばいろいろな用が足せる、というコンビニで普通に行われているサービス

は見習う必要があると思います。その点では、我々に足りないのは「気ばたらき」なのではないでしょうか。相手の立場にたって、相手が何をしたいのかを考え、態度に表して相手に具体的に好意を伝えていく、ということがもっと必要のように思われます。

次には、山形大学が山形での第一の大学であり「大学コンソーシアムやまがた」などによって他の大学をリードし、地域に貢献しようとしているのと同様に、図書館も山形での学術情報の拠点として、他の大学や地域に可能な限り情報を提供していく必要があるのではないかと思います。山形大学は、学長及び各学部のご努力で、歯を食いしばる思いをして世界的レベルのデータベース（Web of

Science）や電子ジャーナル（4,900タイトル以上）、その他の国際的レベルの学術資料を毎年維持しています。この貴重な情報資源を、学内で更に利用しやすい環境を整備し利用を促進するとともに、山形全体にこの資源を共有できるような仕組みを作っていく必要があるのではないかと思います。勿論、契約上の条件や著作権法上の制約はありますが、出来ることはまだまだあるはずです。このことは、社会貢献や情報発信にもつながっていきませんが、まずは、「大学コンソーシアムやまがた」など大学の活動と連携したり、山形全域に広がる卒業生のネットワークなどにより、山大図書館が大学の塀を越えて外に出て行くということを指向・試行することが必要かと思ひます。（ともみつ けんじ）

「鈴木文庫」の寄贈

山形市七日町の開業医・鈴木清夫氏から和算資料212点（鈴木文庫）が寄贈され、平成17年10月19日に、学長室において仙道富士郎学長から感謝状が贈られました。

贈呈式には、鈴木清夫・礼子御夫妻のほか、板垣

山形県和算研究会長、芦立附属図書館長、水原理学部数理科学科長が列席しました。

また、「鈴木文庫」の寄贈を記念して、附属図書館貴重資料展示コーナーにおいて、企画展「山形の和算」を開催しました。



学長からの感謝状贈呈



附属図書館に展示の和算文書



和算資料の説明を受ける学長



左から芦立附属図書館長、鈴木清夫・礼子御夫妻、板垣山形県和算研究会長、水原理学部数理科学科長

「鈴木文庫」は、鈴木氏の曾祖父及び祖父が収集した最上流(さいじょうりゅう)の和算資料群です。

以下、和算のあらましも含めてご紹介します。



鈴木文庫

日本の数学を学問的に体系づけたのは関孝和ですが、この派はのちに関流と呼ばれ和算の主流となりました。その後多くの流派が発生するなかで、代表的なものに山形(現在の山形市七日町)出身の会田算左衛門安明(あいださんざえもんやすあき)(1747-1817)が流祖となった最上流があります。安明は、出身地の最上(もがみ)と、自分の派が最上(ベスト)であるという意味を兼ねて名づけたのです。

安明は、41歳で御普請役の小吏を辞めさせられて数学研究に専念し、65歳で「算法天生法指南」を出版しました。71歳で没するまでおよそ2千冊の著書を書くという多忙さでした。また、安明は多くの門弟を育てており、安明の没後も門弟達により最上流は各地に広がりました。特に福島・山形・長野にはよき後継者があり大いに普及しました。山形大学が所蔵する「佐久間文庫」には、福島県における最上流の資料約900点が含まれています。かつて山形県内にも最上流関係の資料は数多く存在

しましたが、昭和初期に東北大学の三上義夫博士により収集され、現在その多くが東北大学に所蔵されています。現在和算書がまとまって所蔵されているのは東北大学附属図書館(約18,000点で全国の約6割)であり、このほか東京上野の学士院、そして山形大学附属図書館があげられます。

昭和41年に、東北大学・平山謙先生、山形大学・松岡元久先生のご尽力により、会田安明の没後150年祭が山形市で挙行されました。また、その後両先生により著作「会田算左衛門安明」、「山形の算額」が相次いで刊行されました。なかでも「山形の算額」は、手書きの謄写版刷りですが、その後各県で相次いで出版された県単位の算額集のさきがけをなしたものと いえます。

和算には三つの風俗があります。一つは前記の算額の奉納で、主に幾何図形の問題を、難問を解決した感謝の意と、問題の公開を目的として、神社や寺院に絵馬として奉納したものです。「佐久間文庫」には「諸国算額新集」などの貴重な算額集が含まれ

ています。

第二に遺題承継で第三に俳諧における芭蕉の存在のような遊歴算家の存在がありますが、ここでは省略します。

「鈴木文庫」は鈴木家先祖の最上流三伝・鈴木今介(1829-1899)、四伝の今治(1868-1927)により収集されたもので、そのほとんどが写本です。

今介、今治父子について簡単にご紹介します。

◎ 鈴木 今介重栄

重栄は文政12年、山形七日町長源寺門内に生まれ、幼名を広吉と称した。天保の改革に失脚した水野忠邦の長男忠精が浜松から山形に転封になり、忠精のあと忠弘が城主となるに及び、弘と広の同音を遠慮し、広吉を捨てて今介と称するようになったという。号を量軒という。重栄は器用な人で、本の表装、印鑑の篆刻等とても上手であった。また、当時の人としてはなかなかの文化人らしく、明治10年長源寺境内に写真館ができたときに、写真を撮ると早死にするといい撮る人もなかった時代に、率先して写真を撮り、町内の評判になった。また、断髪令が出ると、惜しげもなく髪を切ったので、町の人たちが物珍しさにわざわざ見に来たという。重栄は飛脚を業とし、屋号を「鈴広」といい、山形・仙台間を主として往復した。後藤算斎の依頼を受けて、東都最上社の橋本守善に、最上流の秘伝の書を届けたことは、大きな功績といわねばならない。飛脚といっても、託されたものの用だけでなく、手紙の清書

も引き受け、堅い人だったので大変評判が良かった。その間、仙台の伊藤英輔について測量術を学んでいるが、それ以前から最上流和算を高橋仲善(二伝)に学び、その後、弟子の後藤算斎(三伝)に学んでいる。明治三年、山形県地租改正付一大区之測量士を拜命し、現在の柳町通を開いている。当時の柳町は家並みもほとんどなく、車馬の往来も数えるほどだったので、町のにぎわいのために家並みも必要だということで、長源寺内の自宅を取り壊し、明治16年現住所に居を移したのである。重栄はまじめな人であったが、勉学に熱心のあまり、ほとんど家事を顧みず、家計のことも考えず本等を買うので、赤貧洗うがごとき有様であった。門弟として、七日町・水口久兵エ、同・玉川義一、同・新谷市兵エ、小白川・会田彦太郎のほか、門人名簿に100名(内女子7名)の名が載っており、遠くは米沢、岩沼、横手あたりから来て学んでいた。明治32年、71歳で亡くなり、寺内円寿寺に葬られた。法名を「釈賢慶」という。

◎ 鈴木 今治重量

鈴木今介重栄の長男で、明治元年、山形七日町に生まれた。父に似てまじめな人で、木羽葺を業とし、近所の和算家後藤算斎に数学を学び、特に測量に長じていた。父亡きあとも沢山の門弟を教え、明治の終わり頃まで続いた。門弟には、高瀬下東山の宇治川竹松のように算士として名をなしたものもあるが、多くは和算の研究というよりは、石工、大工、屋根葺などのように職業上特別の数学を必要とした人、あるいは嫁入り前に少し算盤を習っておこうといった人々が、実生活の必要上から暇を見て習いに来るといった状態で

あった。したがって、ある程度進めばやめてしまい、和算の奥義に達するなどという人はほとんどいなかった。割算も7、8の段位まで覚えていれば問屋で魚を買うのに不便がないという、一般商人の考え方だったから、和算の奥義にまで進む人がなかったであろう。和算家水口久兵エ静安の三男・五十嵐昌輔氏は、鈴木今治重量に山形中学に入ってから数学(算盤)を習いに行き、ソロバンで開平開立等も習ったが、筆算でするより却って迂遠だったのでやめたと言っていた。渡辺徳太郎先生の「寺子屋物語」に和算のことについて、

「他は知らぬが山形では当時の木羽職の人々は、大概算者であったということである。是は元来木羽屋の職業と云うのは屋根の勾配とか葺く坪とか、或いは立木で買って木羽に割ればどうかか兎角算の必要があったところに多く木羽屋を集めておった。」とある。なお、今治の門弟長谷喜五郎は、奥山大工の弟子であったが、冬期間や仕事の暇々に算術を習い、その謝礼は師匠の大工から、年の暮れに塩引き一本贈られるにすぎなかったため、喜五郎は悪いなといって、今治が死ぬま

で毎朝のように挨拶に来たという。

今治はいつも子どもや弟子たちに、算術は旦那も、職人も、師匠も弟子も、全く同じにできるものであるから、旦那にぺこぺこ頭を下げる必要もなく、面白いものだといいかかせていた。「幾何学に王道なし」といったユークリッドの言葉と組み合わせ、封建制へのレジスタンスとしての職人の意気がしのばれる。昭和2年、60歳で没し、寺内円寿寺に葬られた。

「鈴木文庫」の特長のひとつとして、資料の保存状態が極めて良好であり、虫食いがほとんどみられないほか、写本の装丁が非常に丁寧であることがあげられます。前述のとおり鈴木今介が大変手先の

器用な人だった、ということからも首肯できます。

また、資料のなかには、はじめて存在が明らかになった算額集4点も含まれています。

「鈴木文庫」により はじめて存在が明らかになった算額集

No.	奉納年	奉納場所・寺社名	問題数	奉納者
5	明治13年(1880)	山形市香澄町・豊烈神社	5	平田嘉助 他4名
58	元治元年(1864)	上市市・湯上観音堂	5	鏡長蔵 他4名
75	慶応2年(1866)	山形市六椏・武田主殿稲荷社	2	鏡長蔵 向甚吉
119	明治17年(1884)	山形市小白川・小白川村学校	2	鈴木今介

鈴木文庫の目録整理については、平成4年頃に岩手県一関博物館の開設に当たって、山形大学出身の鈴木幸彦、相馬(旧姓:丹)美貴子両氏によってなされています。

「佐久間文庫」、「柳原文庫」に加えて「鈴木文庫」が蔵書となり、山形大学の和算資料は一層充実したものとなりました。和算研究家のみならず地域のみなさまの生涯学習等にご活用いただけますようお願いいたします。

なお、鈴木文庫の寄贈にあたり、前掲のほか以下の方々にも多大のお世話になったことを付記させていただきます。ご協力誠にありがとうございました。

信州大学名誉教授・奥山安男、山形大学名誉教授・菅野浩司、東北大学名誉教授・土倉保、山形大学教授・仲田正躬(五十音順・敬省略)。

参考文献
山形市教育史 第1巻



より新しいニュースは、ホームページを!
<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>

中央図書館 ☎023 (628) 4912

● 中央図書館の貸出条件を拡大します

みなさんのご要望を受け、貸出冊数等を下記のとおり拡大します。平成18年度は試行とし、アンケート調査による評価を行い次年度の貸出条件を見直す予定です。

平成18年度 貸出条件(試行)

区分	冊数	期間*
教員(開架)	20冊以内	6週間以内
職員	20冊以内	6週間以内
大学院生・別科学生・各学部最終年次学生	30冊以内	8週間以内
上記以外の学生	20冊以内	6週間以内
学外者	20冊以内	6週間以内

* 貸出の更新はできません

● 中央図書館の開館時間を変更します

開館時間延長のご要望を受けて、下記のとおり変更いたします。貸出条件と同様平成18年度の試行、評価、見直しを行う予定です。

1) 試験期間中開館時間の延長

対象期間・前期7月10日(月)～7月31日(月)
 ・後期1月22日(月)～2月9日(金)
 平日：8時45分～22時
 土日祝日：10時～18時

2) 通常期の土日祝日：13時～17時30分

● 「山形大学(各学部)刊行の学術定期刊行物一覧」

学内で刊行されている定期刊行物のページを作成しました。データの複製(プリントアウト、ダウンロード等)は、調査・研究、教育または学習を目的とする場合のみに限ります。

- ・人文学部研究年報
- ・大学院社会文化システム研究科紀要
- ・人文学部教員の地域連携データファイル
- ・医学部研究業績集

<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/elib/serials/serials.html>

● 第2次遡及入力事業が終了しました

各館の1991年2月以前に受け入れた図書の見録カードを画像化し、OPACから検索できるようになりました。

これまで行ってきた遡及入力と併せてキーワードから全蔵書の検索ができるようになりました。

OPACを検索したときに「見録カード情報」という項目にURLが表示された場合はクリックしてカード画像をご覧ください。見録カード画像の見方はhttp://www.lib.yamagata-u.ac.jp/news/oshirase_alllib/card.htmを参照してください。

医学部分館 ☎023 (628) 5054

● 個室(D室)にプリンターを設置しました

Windowsパソコンを設置している個室にプリンターを設置しました。図書館内でしか利用できない電子ジャーナルのプリントアウトにご利用ください。

● 第46回東北地区医学図書館協議会総会を開催しました

平成17年10月21日、当館を当番校に開催しました。各大学からの報告、関連の質疑を行い、協議事項を審議しました。今回は秋田大学が当番校で開催の予定です。

● 学外者向け図書館利用ガイダンスを実施しました

平成17年12月15日に、学外者を対象に初めての図書館利用ガイダンスを実施しました。参加者は僅かでしたが、今後学外者の希望に沿った内容で随時開催して行く予定です。

● 医学部研究業績集をホームページに掲載しました

2002年版、2003年版及び2004年版を中央図書館の協力で、図書館ホームページに掲載しました。

全文は「山形大学(各学部)刊行の学術定期刊行物一覧」<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/elib/serials/serials.html>からご覧ください。

工学部分館 ☎0238 (26) 3019

● 図書館はどなたでも利用できます

平成16年度から、どなたでも図書館が利用できるようになりました。入館者数を平成16年度と比較すると平成17年度はすでに倍以上になっています。今年度は特に中学生の利用が目立つようになりました。

● 学生の写真を展示しました

館内オープンギャラリーには、大学施設の一般市民への開放の一環として、米沢市芸術文化協会の会員の作品を館内に展示しています。今回学部学生から写真展示の申し出があり、学生にも開放することにしました。若い感性にあふれた4枚の作品をご覧ください。

農学部分館 ☎0235 (28) 2810

● 図書館への出入口を変更しました

北棟の解体・撤去作業の終了に伴い、2月1日より校舎への出入口が旧国道7号線側の門から直進した所に設けられました。

詳しくは、「構内の地図と出入口までの道順」
<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/nougaku/access.html> をご覧ください。

本学教員著作寄贈図書

— 2005.10～2006.3 —

このたび本学の先生方から、以下の著書を寄贈していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

【中央図書館】

松尾 剛次 (人文学部)

「인물로 보는 일본불교사(お坊さんの日本史)
마쓰오 겐지(松尾 剛次 著) 김호성(金 浩星 訳)」
동국대학교출판부, 2005 (182.1//インム)

野堀 嘉裕 (農学部)

「Forest Window : methodology, manual and applications」
Japan Society of Forest Planning Press, 2000 (653.2//FOR)

野堀 嘉裕 (農学部)

「Multipurpose inventory for the aged artificial forest」
Japan Society of Forest Planning Press, 2005 (651.1//MUL)

【工学部分館】

神田 良照 (工学部)

「粉体の生成(粉体工学叢書 2)」日刊工業新聞社,
2005 (571.2//フンタ)

【農学部分館】

粕淵 辰昭 (農学部)

「土壌物理学」朝倉書店, 2005 (613.52//ドジョ)

野堀 嘉裕 (農学部)

「Multipurpose inventory for the aged artificial forest」
Japan Society of Forest Planning Press, 2005 (651.1//MUL)

平成17年度附属図書館運営委員会審議事項

第3回 (平成17年11月8日開催)

- 1 平成17年度・年度計画達成調査状況調査について
- 2 古典資料委員会要項の改正について
- 3 電子資料整備検討委員会について

平成18年度 中央図書館ガイダンスのお知らせ

中央図書館では、4月～10月にかけて下記の通り各種ガイダンスを実施します。

興味をお持ちの方は、参加方法に従いふってご参加下さい。

祝入学

新入生のための 図書館ガイダンス

期間 4月10日(月)～14日(金)

4月17日(月)～21日(金)

時間 16:20～17:00

- 内 容：新入生みなさんに、大学図書館の使い方を簡単に説明します。そのあと、館内めぐりのツアーを行います。普段入室禁止の場所へもご案内します。
- 対 象：新入生（新入生以外の方も参加できます。）
- 参加方法：時間までに図書館入口玄関ホールへお集まりください。

卒論準備のための 文献探索セミナー

期間 7月・10月の毎週火・木曜日

時間 ①13:00～ ②14:40～ ③16:20～

場所 図書館会議室

- 内 容：そろそろ卒論（卒研）に取りかからなければならないけれど、何から手を付けばいいかわからない…。そんな悩みはありませんか？卒論に最低限必要な文献探索の知識を図書館司書が直接レクチャーします。
- 対 象：4年生（2～3年生、大学院生も参加できます。）
- 参加方法：前日までにレファレンスカウンターまたはEメールで申し込んで下さい。グループでの参加も歓迎します。

Web of Science 利用説明会

期間 10月(予定)

時間・場所 未定

(詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせします)

- 内 容：外国語論文を検索・入手する際の定番ツールとしておなじみのWeb of Scienceの上手な利用方法や、最新のバージョンアップ情報などを説明します。
- 対 象：教員、大学院生、卒研生
- 参加方法：前日までにレファレンスカウンターまたはEメールで申し込んで下さい。

先生方へ

授業時間内での 図書館ガイダンスを承ります。

日時、内容についてご希望に応じます。
詳しくは係までご相談下さい。

Eメールでの申込方法

所属、氏名、学生番号、希望のガイダンス名、開催日時、参加人数(グループの場合)を入力して申込アドレス↓に送信して下さい。
右のQRコードからもアクセスできます。



jsagaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

担当係：附属図書館情報サービス課学術情報係 (Tel 023-628-4914)

原稿を募集中です

図書館利用上の建設的なご意見や、要望などをお寄せください。

023 (628) 4903 E-mail jkahosa@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

..... 山形大学附属図書館 2006年3月発行(年2回刊)

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 <http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>